

島根県発掘調査通信 第12号 飯南町 下来島

かみのたに 上ノ谷遺跡発掘調査 現地公開資料

島根県埋蔵文化財調査センター
松江市打出町33 TEL0852-36-8608
飯南町現場事務所 TEL0854-76-9166



調査地位置図

上ノ谷遺跡

調査概要

- 所在地：飯石郡飯南町下来島
- 調査期間：2020年5月～12月（予定）
- 調査面積：約2100㎡
- 調査概要
 - ・1400年～1600年前（古墳時代中後期）の集落跡を確認。
 - ・住居跡など多くの遺構を検出。
 - ・縄文時代前期～弥生時代の土器片も出土。

遺跡について

- ・上ノ谷遺跡では、複数の住居からなる1400年～1600年前の小規模な集落が存在しました。
 - 周辺の集落と共同した生活を営む社会的集団を構成する最小単位の集落であると考えられます。
- ・住居周辺でミニチュア土器（日常生活用の土器を模倣した小形の土器）が出土していることから、集落ではお祭りを行っていたと考えられます。
 - 当時の思想や文化といった精神的活動の一端をうかがうことができます。

上ノ谷遺跡の土壌環境



第1ハイカ
(三瓶太平山降下火山灰)
約3600年前に堆積

第2ハイカ
(三瓶角井降下火山灰)
約4800年前に堆積

上ノ谷遺跡の土層断面

上ノ谷遺跡では「ハイカ」と呼ばれる三瓶山の降下火山灰を含む土と、黒色の土が堆積しています。遺物は黒色の土の中から出土します。三瓶山の噴火時期は判明しているため、ハイカと黒色の土の堆積状況から、出土した遺物の時期を把握することが出来ます。

なお、上ノ谷遺跡では第2ハイカよりも古い火山灰が堆積している状況が確認できています。

上ノ谷遺跡の住居跡

現在までに、昨年度確認した住居跡と併せて上ノ谷遺跡では4棟の住居が建てられていたことが判明しました。今回発見したものは上ノ谷遺跡では4棟目の例（以下、住居跡4と記載）です。

住居跡4の内部から昨年度確認した住居跡と同様に柱穴が確認できていますが、建物の構造などは異なっています。建物の中や周辺から出土する土器も比較的早く、1600年前（古墳時代中期）頃の住居跡であると考えられます。

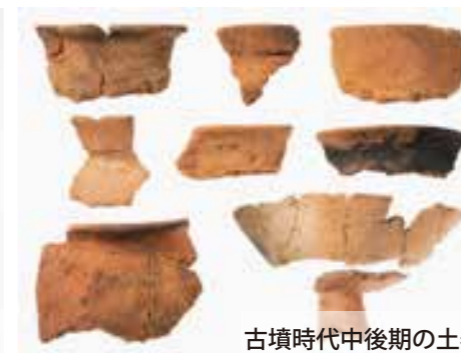


住居跡4

上ノ谷遺跡の出土遺物



ミニチュア土器



古墳時代中後期の土器



縄文土器・石器

上ノ谷遺跡の発掘調査では、古墳時代中・後期の時期に作られた土器が多く出土しています。特に住居跡の周辺からは、甕・壺などの日常生活に使用する土器のみでなく、ミニチュア土器などのお祭りに使用される土器も見つかりました。

また、少量ですが縄文時代・弥生時代の土器や石器も出土しています。

今後の調査について

今年度の上ノ谷遺跡の調査では、第1ハイカより下に堆積する黒色の土からも遺物が出土しています。特に第2ハイカ下層の黒色の土では縄文時代前期前半（約6500年前～7000年前）の土器や石器が出土しています。

少なくとも約6500年前には人間が活動していたことが判明しました。今後は、縄文時代の調査を進め、来島地区の歴史について明らかにしていきます。

今後の調査成果をお待ち下さい!!



第2ハイカ
(三瓶角井降下火山灰)
約4800年前に堆積

石器(石斧)

第2ハイカ下層で出土した石斧

11

令和2年度上ノ谷遺跡調査箇所平面図 (1:400)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

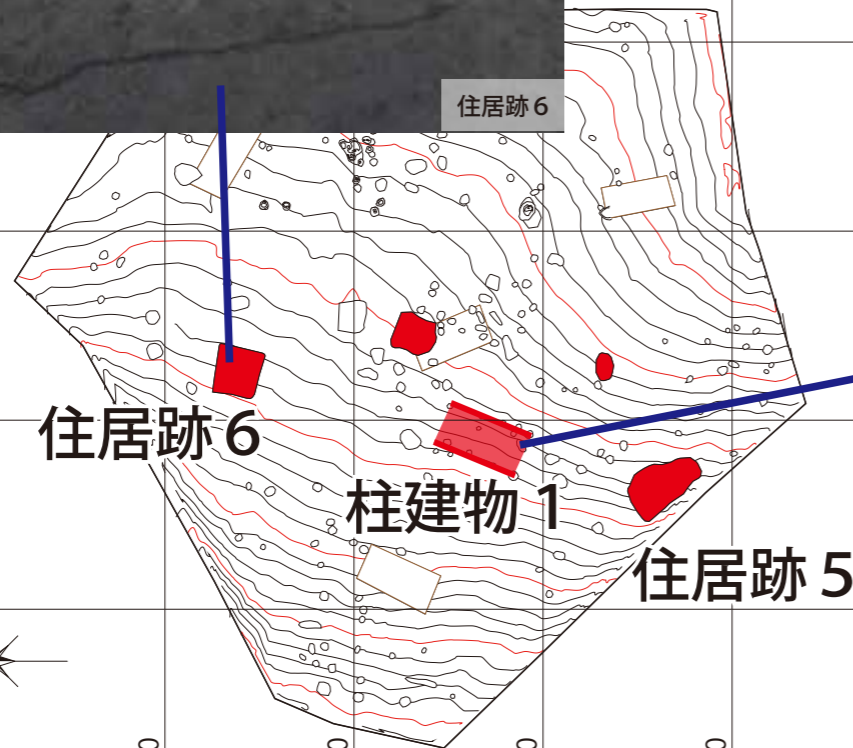
Y=50710
Y=50700
Y=50690
Y=50680
Y=50670
Y=50660
Y=50650
Y=50640
Y=50630
Y=50629



土器が大量に出土した遺構



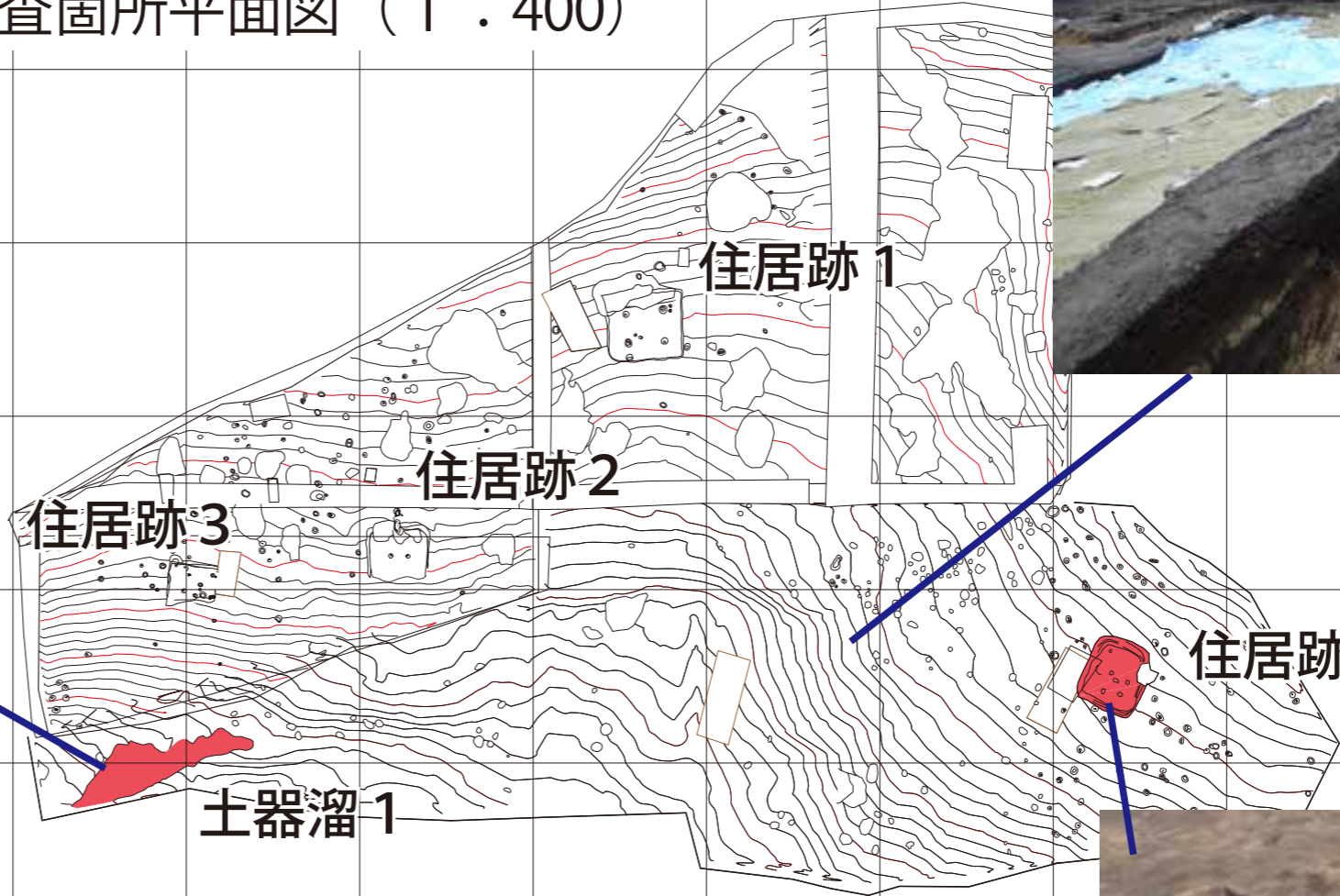
住居跡6



住居跡6

柱建物1

住居跡5

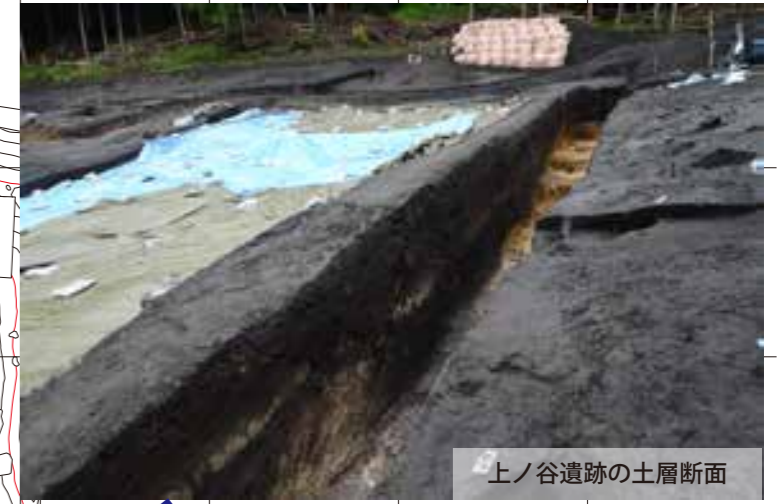


住居跡3

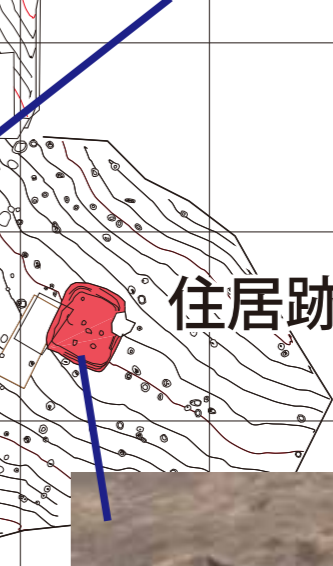
土器溜1

住居跡2

住居跡1



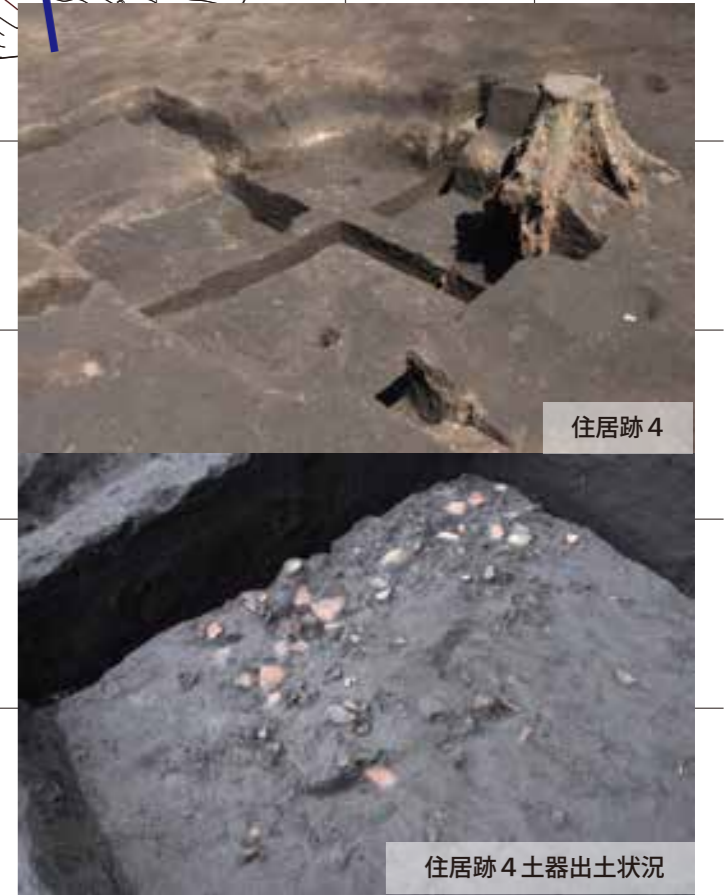
上ノ谷遺跡の土層断面



住居跡4

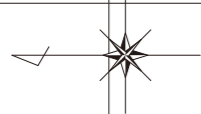


柱建物跡1



住居跡4

住居跡4土器出土状況



X=-106310

X=-106320

X=-106330

X=-106340

X=-106350

X=-106360

X=-106370

X=-106380

X=-106390

X=-106400

X=-106410

X=-106420

X=-106430

X=-106440

X=-106450

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

